

ゼレンスキーは、ウクライナ南東部のロシア語圏であるKryvyiRihで育ちました。

俳優としてのキャリアの前に、ゼレンスキーはキエフ国民経済大学で法学の学位を取得しました。

その後、コメディアーを追求し、映画、漫画、テレビ番組を制作する制作会社Kvartal 95を設立しました。

この会社では、ゼレンスキーがウクライナの大統領の役割を果たしました。

このシリーズは2015年から2019年にかけて放映され、絶大な人気を博しました。

テレビ番組と同じ名前の政党は、2018年3月にKvartal95の従業員によって作成されました。

ゼレンスキーは、1 + 1 TVチャンネルでのペトロポロシェンコ大統領の大晦日の演説とともに、2018年12月31日の夜に2019年ウクライナ大統領選挙への立候補を発表しました。

政治的な部外者である彼は、すでに選挙の世論調査の最有力候補の1人になっています。

彼は第2ラウンドの投票の73.2%で選挙に勝ち、ポロシェンコを破った。ポピュリストとしての地位を確立し、彼は自分自身を反体制、腐敗防止の人物として位置づけています。

大統領として、ゼレンスキーは、国の人口のウクライナ語圏とロシア語圏の間の電子政府と統一の支持者でした。

彼のコミュニケーションスタイルは、ソーシャルメディア、特にInstagramを多用しています。

彼の党は、大統領就任直後に行われた立法選挙で地滑りの勝利を収めた。

彼の政権の間、ゼレンスキーはウクライナの議会であるヴェルホフナ・ラダのメンバーに対する刑事免責の解除を監督しましたCOVID-19パンデミックに対する国の対応 そしてその後の景気後退、そして腐敗への取り組みにおけるいくつかの進歩。

ゼレンスキーの批評家は、ウクライナのオリガルヒから権力を奪う際に、権威を一元化し、個人的な立場を強化しようとしたと主張している。

ゼレンスキーは、大統領選挙の一環として、ウクライナのロシアとの長引く紛争を終わらせることを約束し、ロシアのウラジーミルプーチン大統領との対話を試みた。

ゼレンスキー政権は、2021年にロシアとの緊張の高まりに直面し、2022年2月に進行中の本格的なロシア侵攻の開始に至った。

ロシアの軍事力増強中のゼレンスキーの戦略は、ウクライナの大衆を落ち着かせ、ウクライナが報復を求めていることを国際社会に保証することでした。

彼は当初、差し迫った戦争の警告から距離を置き、同時にNATOからの安全保障と軍事支援を求めた。

脅威に「耐える」。

侵略の開始後、ゼレンスキーはウクライナ全土で戒厳令と一般的な動員を宣言した。

Volodymyr Oleksandrovych ゼレンスキーは、1978年1月25日にクリヴィーリフで、その後ウクライナソビエト社会主義共和国でユダヤ人の両親に生まれました。

彼の父、オレクサンドル・ゼレンスキーは、クリヴィー・リフ州立経済技術大学の教授であり、サイバネティクスおよびコンピューティングハードウェア学部長です。

彼の母親、Rymma Zelenskaは、エンジニアとして働いていました。

彼の祖父、セミヨン（シモン）イワノビッチゼレンスキーは、赤軍（第57警備隊モーターライフル部門）に仕えた。

第二次世界大戦中；ホロコーストでセミヨンの父と3人の兄弟が殺害された。

小学校を始める前、ゼレンスキーは父親が働いていたモンゴルの都市エルデネトに4年間住んでいた

16歳で、彼は外国語としての英語のテストに合格し、イスラエルで勉強するための教育助成金を受け取りましたが、彼の父親は彼が行くことを許可しませんでした。

彼は後にクリヴィー・リフ経済大学で法学位を取得し、当時はキエフ国民経済大学の学部であり、現在はクリヴィー・リフ国立大学の一部である。

しかし法曹界で働き続けませんでした。

17歳で、彼は地元のKVN（コメディコンペティション）チームに参加し、すぐにKVNのメジャーリーグで演奏し、最終的に1997年に優勝したウクライナの統一チーム「Zaporizhia-KryvyiRih-Transit」に招待されました。

その同じ年、彼はKvartal 95チームを作成し、率いました。

このチームは後にコメディの衣装Kvartal 95に変身しました。

1998年から2003年まで、Kvartal95はメジャーリーグとKVNの最高のオープンウクライナリーグで演奏しました。

チームメンバーはモスクワで多くの時間を過ごし、ソビエト後の国々を絶えずツアーしました。

2003年、Kvartal95はウクライナのテレビチャンネル1 + 1向けのテレビ番組の制作を開始しました。

そして2005年に、チームは仲間のウクライナのTVチャンネルInterに移動しました。

2008年、彼は長編映画「大都会の愛」とその続編「大都会の愛2」に出演しました。

ゼレンスキーは、映画「オフィスロマンス」で映画のキャリアを続けた。2011年の私たちの時間と2012年のRzhevsky対Napoleonと。

大都市 3の愛は2014年1月にリリースされました。

ゼレンスキーはまた、2012年の映画8 FirstDatesと2015年と2016年、彼はパディントン2のウクライナのダビング（2014）でパディントン2の声を録音し、パディントン2（2017）。

ゼレンスキーは、2010年から2012年までテレビチャンネルInterの取締役会のメンバーであり、ジェネラルプロデューサーでした。

2014年8月、ゼレンスキーは、ウクライナ文化省がロシアの芸術家をウクライナから禁止する意図に反対して発言しました。

2015年以来、ウクライナはロシアの芸術家やその他のロシアの文化作品のウクライナへの入国を禁止している。

2018年、ゼレンスキー主演の大都市2でのロマンチックコメディ ラブはウクライナで禁止されました。

ウクライナのメディアがドンバス戦争中にドンバス・ゼレンスキーのクヴァルタル95がウクライナ軍に100万のフリヴニアを寄付したと報じた後、一部のロシアの政治家や芸術家はロシアでの彼の作品の禁止を請願した。

もう一度、ゼレンスキーは、ウクライナ文化省がロシアの芸術家をウクライナから追放するという意図に反対して発言した。

2015年、ゼレンスキーはテレビシリーズ「国民の僕」のスターになり、ウクライナの大統領の役割を果たしました。

シリーズでは、ゼレンスキーのキャラクターは、ウクライナでの政府の腐敗に反対するバイラルビデオが彼を示した後、大統領選挙に勝った30代の高校の歴史教師でした。

ゼレンスキーが登場したコメディシリーズSvaty（“In-laws”）は、2017年にウクライナで禁止されましたが、2019年3月には禁止されませんでした。

ゼレンスキーは主にロシア語の制作で働いていました。ウクライナ語での彼の最初の役割は、ロマンチックコメディI、You、He、She [ru ; uk]は、2018年12月にウクライナの画面に表示されました。

スクリプトの最初のバージョンはウクライナ語で書かれていましたが、リトアニアの女優AgnėGrudytėのためにロシア語に翻訳されました。

その後、映画はウクライナ語に吹き替えられました。

2019年のウクライナ大統領選挙への立候補を発表する6か月前（2018年12月31日）、ゼレンスキーはすでに意見調査の最有力候補の1人でした。

何ヶ月にもわたるあいまいな反応の後、TVチャンネル1 + 1でのKvartal95大晦日の夜のショーの間に、彼の選挙の立候補。そうすることで、彼はその特定のチャンネルでペトロ・ポロシェンコ大統領の大

晦日の演説を上演した。

ゼレンスキーは後に、大統領のアップステージングが意図的なものであることを否定し、これを技術的な不具合に帰した。

選挙運動の間、ゼレンスキーはクヴァルタル95とのツアーを続けた。

選挙運動の間、主流メディアとの彼の関与は最小限であった。

彼はソーシャルメディアチャンネルとYouTubeクリップで有権者と話をした。

2019年4月16日、20のウクライナの報道機関がゼレンスキーにジャーナリストの回避をやめるよう求めた。

2日後、ゼレンスキーはジャーナリストから隠れていなかったが、「旧権力の人々」が「ただPRをしている」というトークショーに行きたくなかったと述べた。

すべての面接要求を満たします。

選挙に先立ち、ゼレンスキーは元財務大臣のオレクサンドル・ダニリュクらを含むチームを発表したキャンペーン中、オリガルヒのイゴール・コロモイスキーとのつながりについて懸念が表明された。

ポロシェンコ大統領と彼の支持者たちは、ゼレンスキーの勝利がロシアに利益をもたらすと主張した。

2019年4月19日、オリンピスキ国立スポーツコンプレックスで大統領選挙討論会がショーの形で開催されました。

ゼレンスキーは紹介スピーチで、2014年にポロシェンコに投票したことを認めましたが、「私は間違っていました。

私たちは間違っていました。1つのポロシェンコに投票しましたが、別のポロシェンコを受け取りました。

最初はビデオカメラがあるときに表示され、もう1つのペトロはメドヴェドチュクprivietikiを送信します。

選挙中、ゼレンスキーは彼が1期だけ走っていたと述べた。

2021年5月、彼は2期目に出馬するかどうかを言うのは時期尚早であると述べたが、この決定は社会における彼の態度に依存し、彼の家族の影響を受けるだろう。

ゼレンスキーは、2019年4月21日にウクライナの大統領に選出され、現職のペトロポロシェンコを破り、ポロシェンコの25%に対する投票の73%近くを獲得しました。

ポーランドのアンジェイ・ドゥダ大統領は、ゼレンスキーを祝福した最初のヨーロッパの指導者の一人でした。

フランスのエマニュエルマクロン大統領は、2019年4月12日にパリのエリゼ宮殿でゼレンスキーを訪問を受けた。

4月22日、米国大統領ドナルドトランプは電話での勝利を祝福した。

欧州委員会委員長のジャンクロードユンカーと 欧州理事会のドナルド・トゥスク議長も共同祝辞を発表し、欧州連合（EU）は、包括的自由貿易圏を含むEU-ウクライナ連合協定の残りの部分の実施を加速するために取り組むと述べました。

ゼレンスキーは2019年5月20日に発足しました。

サラメ・ゾラビチビリ（ジョージア）、ケルスティ・カリユライド（エストニア）、ライモンツ・ヴェヨニス（ラトビア）、ダリア・グリバウスカйте（リトアニア）など、ウクライナ議会（ヴェルホフナ・ラダ）での式典にはさまざまな外国当局者が出席しました。

JánosÁder（ハンガリー）、MarošŠefčovič（欧州連合）、Rick Perry（米国）。

ゼレンスキーはウクライナの最初のユダヤ人大統領である。

ウクライナの首相としてのヴォロディーミル・グロイスマンは、ユダヤ人の大統領と首相の両方を持つ2

番
目の国になりました。

ゼレンスキーは就任演説で、当時のウクライナ議会を解散し、早期の議会選挙（当初はその年の10月に行われる予定だった）を求めた。

ゼレンスキーの連立パートナーの1つである人民戦線は、この動きに反対し、与党連立から撤退した。

ゼレンスキーは、Andriy Bohdanをウクライナ大統領府の長に任命しました。

これ以前は、ボーダンはウクライナのオリガルヒ、イゴール・コロモイスキーの弁護士を務めていました。

ユーロマイダンに続いて2014年に導入されたウクライナのラストレーションの規則の下で、ボーダンは2024年まで州の役職を務める権利がない（第二次アザロフ政権時代の彼の政府の役職のため）。

しかしながら、ボーダンは大統領政権を率いることは公務員の仕事とはみなされないため、彼には欲求不満は当てはまらなかったと主張した。

ボーダンは大統領政権の長になった後、彼の法的なキャリアを中断した。

彼の任命に続いて、ボーダンは「オリガルヒはすでに他の市民と同じゲームのルールを望んでいる」と主張した。

ゼレンスキー大統領政権の他の副長官の多くは、ウクライナのシークレットサービスの副長官となったイワン・バカノフを含む、彼の元制作会社であるクヴァルタル95の元同僚であった

元外務副大臣Olena Zerkal大統領政権の副長官としての任命を辞退したが、ロシアに関する国際裁判所のウクライナ代表を務めることに同意した。

5月28日、ゼレンスキーはウクライナのみヘイルサアカシュビリ市民権を回復しました。

選挙制度を変更するというゼレンスキーの最初の主要な提案は、ウクライナ議会によって拒否されました。

議会はまた、ゼレンスキーが国の外務大臣、国防相、SBUの長を解任することを承認することを拒否した。

さらに、6月6日、議員は議会の議題に違法な濃縮に対する刑事責任を再導入するというゼレンスキーの主要なイニシアチブを含めることを拒否し、代わりに議員のグループによって提案された同様の法案を含めた。

2019年6月、立法者、外交官、裁判官からの免責を取り除こうとする大統領の3番目の主要なイニシアチブが、2019年7月のウクライナ議会選挙後に提出されることが発表された。

2019年6月11日、ゼレンスキーはウクライナの15の州（州）の長と5つの州のSBU（シークレットサービス）部門の長を解任し、国の検察総長を解任するよう議会に要請しました。

7月8日、ゼレンスキーは、費用を理由に、Maidan Nezalezhnostiでの毎年恒例のKyiv独立記念日パレードのキャンセルを命じた。

それにもかかわらず、ゼレンスキーは、独立記念日に「英雄を称える」日になると強調しましたが、「形式は新しくなります」。

彼はまた、退役軍人のパレードに資金を提供するために使用されたであろうお金を使うことを提案しました。

2019年7月21日の議会選挙で、ゼレンスキーの政党である国民の僕は、議会での現代ウクライナ史上初の単一

政党の過半数を獲得し、政党リストの投票の43%を獲得しました。

彼の党は424議席のうち254議席を獲得した。

2020年、ゼレンスキー党は、競争を激化させ、テレビやラジオ放送局でのウクライナのオリガルヒの支配を緩めることを目的として、ウクライナのメディア法の改正を提案しました。

批評家は、偽情報の配布に対する刑事責任の条項が乱用される可能性があるため、ウクライナでメディアの検閲を増やすリスクがあると述べた。

ゼレンスキーは、2020年1月のオマーンへの秘密の旅行について批判されましたが、公式のスケジュールでは公表されておらず、個人的な休日と政府の事業が混ざっているように見えました。

大統領府は、旅行は政府のお金ではなくゼレンスキー自身によって支払われたと述べたが、ゼレンスキーは旅行の透明性の欠如について激しい批判を受け、それは彼の前任者ペトロ・ポロシェンコがモルディブで取った秘密の休暇と比較して不利だった、そしてゼレンスキー自身がその時に批判していたもの。

ドンバス紛争を終わらせる試みでゼレンスキーの中心的なキャンペーンの約束の1つは、ドンバス戦争を終結させ、そこでロシアが後援する分離主義運動を解決することでした。

6月3日、ゼレンスキーは紛争解決のための三者接触グループのウクライナ代表としてレオニード・クチャマ前大統領を任命した。

2019年7月11日、ゼレンスキーはロシアのウラジーミルプーチン大統領との最初の電話での会話をを行い、その間にプーチンにヨーロッパ諸国が仲介する会談に参加するよう促した。

2人の指導者は、双方が拘束する捕虜交換についても話し合った。

2019年10月、ゼレンスキーは分離主義者との予備協定を発表しました。この協定の下で、ウクライナ政府は、ロシアが軍隊を撤退させる代わりに、この地域で行われた選挙を尊重します。

この取引は、政治家とウクライナ国民の両方から激しい批判と抗議に見舞われた。

批判者たちは、ドンバスで行われた選挙が自由で公正である可能性は低く、分離主義者は長い間、親ロシアの過半数を確保するためにほとんどの親ウクライナの住民をこの地域から追い出し、ロシアがその契約の終了した。

ゼレンスキーは、ロシアの撤退前に選挙は行われないと述べ、交渉を留保した。